学会だより

第109回理事会

平成15年11月17日(月)，日本大学会館にて開催

平成15年10月末会員数：正会員2,018名，準会員182名，賛助会員43社

本学会事務局の移転（移転日11月29日）を承認．移転先は東京都港区赤坂2-10-14第2信和ビル5階（TELおよびFAXは変更なし）

平成15年度予算41,495,156円，10月末収入27,790,139円，支出23,248,924円

＜編集＞第15回委員会を11月7日に開催．査読進捗状況（投稿論文：原著12編，短報2編）を報告

＜JIS＞平成16年度JIS原案作成委員会開催日程および構成員名簿を報告

＜広報＞最近の主な更新状況，アクセス数を報告

＜資格制度＞認定人間工学専門家部会の運営体制（組織および人事）を報告．第1期認定試験に係わる問合せへの回答を審議．「認定人間工学専門資格制度に関する規則」の改訂を承認．認定人間工学専門家部会平成15年度事業計画および予算を承認．第2期認定試験実施時期については再検討を依頼

本学会運営細則の変更（案）を審議のうえ承認．追加条文は，第10条第2項「日本人間工学会認定人間工学専門資格制度にかかる収支については，学会の一般会計とは別に，これを人間工学専門資格制度特別会計として運用する」（平成15年11月17日改訂）

学会HPのドメイン名取得，サーバー移転の提案を承認

第34回安全工学シンポジウム（2004年7月8日，9日に日本学術会議講堂）の共催・共済金支出を審議のうえ承認．同シンポジウム実行委員に酒井一博氏を指名

安全工学協会との共同企画活動についての対応を検討．平成15年度賛助会員への講演会（兼人間工学啓発セミナー）を平成16年3月に開催（案）を審議のうえ承認．医療安全をテーマに，土屋文人氏に講演を依頼

その他：協賛，記事掲載依頼4件を承認．第110回理事会を平成16年1月26日に開催予定（総務）

「人間工学とは何か？」を第三者に説明することは容易ではない．インターネットで「人間工学」を検索してみると，「Ergonomicsの定義をひとつで表現することは必ずしも正確な学問領域を伝えることが出来なくなるという懸念もありますが，代表的な定義を以下に…… 1．人間とその作業環境… 2．人間が取り扱う機械器具・道具… 3．人間の身体的・精神的能力とその限界…」とあった．スポーツ科学は人間工学の対象外かも知れないが上記の範疇には入るだろう．ここで札幌・長野冬季オリンピックで我が選手団が表彰台を独占したスキージャンプを考えてみたい．選手は踏切台から秒速25 m/sで空中に飛び出す．物理の法則によれば初速と方向が決まれば飛距離は同じはずだが，飛距離は70〜140 mと差が出る．浮力を受けるスキー板の長さには強すぎる日本選手への怯えからか身長による制限が加えられた．それに対処すべく日本を代表する葛西・船木両選手（身長175 cm）は体重を60 kgまでそぎ落とした．その細い体に特別に強靱筋肉な蓄え，瞬間的な判断による強い踏切動作と方向付けで空中に飛び出し，わずか数秒間の空中飛行を全身をベストな流体力学的姿勢に制御し140 m迄飛行するのである．単なる練習の積み重ねだけではなく，自らの体型を合目的に改造し，かつ，スキー用具，浮力を得るスーツの素材やデザインなど正に人間工学の極致とも言える知恵を集積して宙を舞い，その成果に観衆は熱狂するのである．

特定の狭い専門領域を対象とした研究だけではなく，第三者にも理解され，その成果が市民にも還元されるような研究の投稿が望まれる．

（西　安信）

日本人間工学会第15期編集委員会（五十音順）

編集委員長／谷井克則，（副）八田一利

編集委員／猪岡　光，岩永光一，宇賀神　博，大倉元宏，小美濃幸司，辛島光彦，桑野園子，鴻巣　努，菅原洋子，辻　敏夫，冨田明美，中村和男，西　修二，西　安信，藤家　馨，山岡俊樹

人　間　工　学　Vol. 40, No. 1

（平成16年2月15日　発行）

定価1,785円（本体　1,700円）　〒60円

発　行　©　日本人間工学会

〒107-0052　東京都港区赤坂2-10-14
第2信和ビル5F
電話　03-3587-0278　FAX　03-3587-0284
http://plaza8.mbn.or.jp/~jes/
代表者　大久保堯夫

発　売　株式会社　日本出版サービス
〒113-0021　東京都文京区本駒込2-1-3
電話　03-3942-8222　FAX　03-3942-8280

印　刷　三美印刷株式会社
〒116-0013　東京都荒川区西日暮里5-9-8
電話　03-3803-3131　FAX　03-5604-7037

『人間工学』誌投稿規定

1．投稿資格

投稿原稿の著者は，1名以上が本学会員であること．

2．投稿原稿の種類と採否

投稿原稿の種類は，人間工学領域に関連する総説，原著，短報，資料，技術報告の5種類とする．但し他学会誌に掲載されたものおよび投稿中のものを重複して投稿してはならない．

上述の5種類の投稿原稿は査読対象となり，投稿原稿の採否は査読結果に基づき編集委員会において決定する．

編集委員会からの照会事項に対して回答(原稿修正を含む)する場合，回答等の提出期限は2ヶ月以内とし，これを超えたときは新規投稿の扱いとなる．

掲載採用決定日を受理日として誌上に記載する．

総　説：

ある問題に対する最近の学術的・技術的知見や成果を，歴史的背景，重要性，進捗状況，将来の方向等を踏まえつつ，総合的に論述したものとする．著者の原著報告であってはならない．但し著者の業績を中心に述べることは差しつかえない．

原　著：

新しい研究成果をまとめた著述であって，新規性のあるものとする．

短　報：

新規性があり，研究の動機（目的），方法，結果などを簡明に記述したもの，または新しい事実，方法論など，これだけでも早く発表する価値があるものとする．後日，その詳細を原著論文として投稿することができる．

資　料：

実験，試験および調査によって得られた各種データをまとめたもので，研究・設計・開発・評価等にとって有用な資料として参考になるものとする．高い新規性は要求されない．

技術報告：

人間工学の視点で改善，設計および開発した機器，製品，システムおよび空間等の実用的価値のある事例を記述した報告および新しいもしくは有用な人間工学的手法や技術の適用例を記述した報告とする．

上記の査読を伴う投稿原稿のほかに，編集委員会が受け付ける原稿として，国外の研究動向や技術開発動向に関する解説（刷上り4頁以内），人間工学と関連した領域の国際学術集会参加報告（刷上り1頁以内）および書評（刷上り1/2頁以内）がある．解説原稿の書き方は，下記の「5.2 投稿原稿の書き方・様式」における(2)，もしくは「6.2 投稿原稿の書き方・様式」における(3)を遵守し，和英の抄録を付けない．これらの原稿の採否は編集委員会が決定する．

3．出版権

本誌に掲載された論文等の出版権は学会に帰属するものとする．他誌および書籍へ図表を転載する場合は，書面でその旨を編集委員会に申し出，許可を得なければならない．

4．原稿の作成法

投稿論文の原稿の作成法は，次の二通りとする．

(1)　非 T_EX 原稿：ワードプロセッサなどによる作成

(2)　T_EX 原稿：L^AT_EX による作成

5．非 T_EX 原稿による投稿

5.1　原稿の送付：

投稿原稿は，原本1部とコピー3部を添付し，編集委員会宛に送付する．編集委員会に到着した日を受付日として誌上に記載する．

掲載採用の決定通知後，修正済みの最終原稿をテキストスタイル形式で記録・保存したフロッピーディスクを速やかに編集委員会に提出する．

5.2　投稿原稿の書き方・様式：

原稿は簡潔にして要を得たものとし，専門を異にする読者にも趣旨が理解される表現に留意する．また，書籍・雑誌などの図表を引用するときは，必ず出展を明記する．

(1)　規定の投稿用紙に原稿の種類，和・英の題目，著者名とそのローマ字表記，所属団体とその英語名称および連絡先，原稿枚数，別刷部数等を記入する．この他，原稿内容の確認チェックを行う．

投稿用紙は各号に綴じ込まれたものをコピーして使用するか，もしくは本学会のホームページ(http://plaza8.mbn.or.jp/~jes/) から，ネットワークを利用して取得する．

(2)　本文の1枚目に原稿の種類と和文題目のみを記載し，著者名および所属を記入しない．原稿は原則としてワードプロセッサなどによる機械仕上げのものとし，書式は下記の事項を遵守すること．

- 用紙：A4判
- 文字数/1頁：1200文字（40字×30行）
- 余白：上下端および左右端を広めにとること．

・図表位置の指定：右の余白に挿入位置を指定すること．

・ページ：下端に必ずページを記載すること．

（3） 投稿原稿の長さは下記のとおりとする．

1） 総説は，図表，参考文献などを含めて刷り上がり6頁以内（1200字/原稿1ページ×10枚以内）を基本原則とする．和文抄録および英文抄録は必要としない．

2） 原著は，和文抄録（日本語キーワードを含む），英文抄録，図表および参考文献などを含めて刷り上がり6頁以内（1200字/原稿1ページ×10枚以内）を基本原則とする．

3） 短報は，図表，参考文献などを含めて刷り上がり4頁以内（1200字/原稿1ページ×6枚以内）を基本原則とする．和文抄録，英文抄録，キーワードは必要としない．

4） 資料は，和文抄録（日本語キーワードを含む），英文抄録，図表および参考文献などを含めて刷り上がり6頁以内（1200字/原稿1ページ×10枚以内）を基本原則とする．

5） 技術報告は，和文抄録（日本語キーワードを含む），英文抄録，図表および参考文献などを含めて刷り上がり4頁以内（1200字/原稿1ページ×6枚以内）を基本原則とする．

（4） 和文抄録は要点を簡潔に400字以内でまとめたものとし，本文などとは用紙をかえて作成する．題目，著者名，所属を記載しない．原著，資料，技術報告の場合には，その末尾に日本語キーワードをつける．

（5） 英文抄録は要点を200語以内で簡潔にまとめたものとする．本文および和文要旨とは用紙をかえて，ダブルスペースで印字する．査読の対象になっているので，ネイティブチェックを受けることを推奨する．書き方に関しては，各号に綴じ込まれている「英文抄録の書き方」を参考にする．「英文抄録の書き方」は本学会のホームページ（http://plaza8.mbn.or.jp/~jes/）にも掲載されている．

（6） 表の作成には1つの表ごとに別紙を用い，和文，英文の説明をつける．

（7） 図（写真を含む）の作成には1つの図ごとに別紙を用い，和文，英文の説明をつける．図の原稿は，白紙に黒色印字するかもしくは黒インクを用いて描き，その大きさは横寸法8 cm（仕上がり時の片段横寸法）もしくは17 cm（仕上がり時の段抜き横寸法）の約1.5倍を推奨値とする．縦寸法については，特に定めない．

（8） 参考文献：本文中には引用個所の右肩に文献の番号を記載し，本文末尾に出現順にまとめて記載する．形式は以下のとおりとする．

雑誌：No.）著者名：表題，雑誌名，巻(号)，ページ—ページ，発行年（西暦）

書籍：

（1） 単著または共著の場合

No.）著者名：書名，ページ—ページ，発行所，出版地，発行年（西暦）

（2） 分担執筆の場合

No.）著者名：題名，編者名，書名，ページ—ページ，発行所，出版地，発行年（西暦）

（9） 用字・用語については，現代かなづかいとする．アラビア数字を使い，SI単位系（m，kg，s，Aなど）を用いる．

5.3 英語による投稿原稿の書き方・様式：

英語による投稿原稿も受け付ける．書き方・様式は日本語による投稿原稿の場合に準じるが，ダブルスペースで印字すること．原稿はネイティブチェックを受けたものであること．

6. T_EX 原稿による投稿

6.1 原稿の送付：

投稿原稿は，T_EX 形式で作成した原本1部とコピー3部を添付し，編集委員会宛に送付する．編集委員会に到着した日を受付日として誌上に記載する．

掲載採用の決定通知後，T_EX 形式で作成した修正済みの最終原稿ファイル一式を記録・保存したフロッピーディスクと，本文原稿中に取り込んでない図，表，写真等の原図を速やかに編集委員会に提出する．

6.2 投稿原稿の書き方・様式：

原稿は簡潔にして要を得たものとし，専門を異にする読者にも趣旨が理解される表現に留意する．また，書籍・雑誌などの図表を引用するときは，必ず出展を明記する．

（1） 規定の投稿用紙に原稿の種類，和・英の題目，執筆者名とそのローマ字表記，所属団体・部署とその英語名称，および連絡先，原稿枚数，別刷部数などを記入する．

投稿用紙は各号に綴じ込まれたものをコピーして使用する．

（2） T_EX 原稿作成の際には，本学会のホームページ（http://plaza8.mbn.or.jp/~jes/）から T_EX 用ファイルを，ネットワークを利用して取得する．なお，本文の1枚目には著者名および所属を記入しないこと．

取得ファイルの内容を以下に示す．

・ergo. cls（和文用クラスファイル）

・e-ergo. cls（英文用クラスファイル）

・manual. tex（TEX 原稿作成の説明）

・sample. tex（和文用サンプルファイル）

・e-sample. tex（英文用サンプルファイル）

（3） 取得したファイルの manual. tex ファイルを熟読し，その指示にしたがって原稿を執筆する．なお，使用可能な L^AT_EX は $L^AT_EX2\varepsilon$ である．また，原稿作成の際に使用するクラスファイルを変更してはならない．

（4） 投稿原稿の長さは下記のとおりとする．

1） 総説は，図表，参考文献などを含めて刷り上がり6頁以内を基本原則とする．和文抄録および英文抄録は必要としない．

2） 原著は，和文抄録（日本語キーワードを含む），英文抄録，図表および参考文献などを含めて刷り上がり6頁以内を基本原則とする．

3） 短報は，図表，参考文献などを含めて刷り上がり2頁以内を基本原則とする．和文抄録，英文抄録，キーワードは必要としない．

4） 資料は，和文抄録（日本語キーワードを含む），英文抄録，図表および参考文献などを含めて刷り上がり6頁以内を基本原則とする．

5） 技術報告は，和文抄録（日本語キーワードを含む），英文抄録，図表および参考文献などを含めて刷り上がり4頁以内を基本原則とする．

（5） 和文抄録は要点を簡潔に400字以内でまとめる．また，日本語キーワードをつける．

（6）英文抄録は要点を200語以内で簡潔にまとめる．査読の対象になっているので，ネイティブチェックを受けることを推奨する．

（7） 図（写真を含む），表の番号は，それぞれ Fig. 1，Fig. 2，…Tab. 1，Tab. 2，…とし，和文，英文の説明をつける．なお，その大きさは刷り上がり最大1ページであり，それ以下になるように考慮する．

（8） 参考文献：本文中には引用個所の右肩に文献の番号を記載し，本文末尾に出現順にまとめて記載する．形式は以下のとおりとする．

雑誌：No.）著者名：表題，雑誌名，巻(号)，ページ—ページ，発行年（西暦）

書籍：

（1） 単著または共著の場合

No.）著者名：書名，ページ—ページ，発行所，出版地，発行年（西暦）

（2） 分担執筆の場合

No.）著者名：題名，編者名，書名，ページ—ページ，発行所，出版地，発行年（西暦）

（9） 用字・用語については，現代かなづかいとする．アラビア数字を使い，SI単位系（m，kg，s，Aなど）を用いる．

6.3 英語による投稿原稿の書き方・様式：

英語による投稿原稿も受け付ける．書き方・様式は日本語による投稿原稿の場合に準じる（英文用のクラスファイル e-ergo. cls を使用すること）．原稿はネイティブチェックを受けたものであること．

7. 校正

校正は原則として初校のみ著者が行い，初校以降は編集委員会に一任する．

8. 掲載料

掲載料の請求は，非 T_EX 原稿と T_EX 原稿で異なり，次の表に示す通りである．

	規定項まで	超過頁
非 T_EX 形式	10,000円/頁	20,000円/頁
T_EX 形式	8,000円/頁	16,000円/頁

1） 図版作成料：トレース，写植の貼り込み料は，その大きさ，複雑さによって異なるので別途請求する．

2） 別刷料：別刷は最低50部，それ以上は100部単位とする．なお，後刻の申し出には応じられない．

50部	100部	200部	300部	400部
7,500円	10,000円	15,000円	20,000円	30,000円

9. 投稿先

〒275-0016

千葉県習志野市津田沼2-17-1

千葉工業大学 工学部デザイン科学科 八田研究室内

日本人間工学会第15期編集委員会事務局

（2003.11.17 理事会承認）